一茶全集

第1巻　発句

小林計一郎　宮脇昌三
丸山一彦　矢羽勝幸　校注

信濃毎日新聞社

一茶全集／第一巻

発句

昭和五十四年八月二十日発行

校注　小林計一郎
　　丸山一彦
　　宮脇昌三
　　矢羽勝幸

編集　信濃教育会
　　長野市旭町

発行所　信濃毎日新聞社
　　長野市南県町六五七
　　電話（〇二六二）三四一四三
　　振替　長野　一二〇

印刷　信毎書籍印刷株式会社
　　長野市西和田四七〇

定価　六九〇〇円

第一巻／発句

目次

解説……五
凡例……七
出典書目……一一
新年の部……三
時候……三　動物……五三
天文……三　植物……五三
人事……三四
春の部……五五
時候……七七　人事……一〇〇
天文……六五　動物……一二〇
地理……九二　植物……一八〇

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

夏の部……二四三
時候……二四五　人事……二七九
天文……二五九　動物……三三三
地理……二七三　植物……三八九
秋の部……四二七
時候……四二九　人事……四八九
天文……四四八　動物……五三〇
地理……四六八　植物……五五三
冬の部……六〇三
時候……六〇五　人事……六五五
天文……六一九　動物……七二三
地理……六五三　植物……七三三
雑の部……七四一
季題索引……七四九

解　説

膨大な句数を有する一茶の発句集で、すべての句の出典、または句形異同などを網羅したものはかつてなく、今回初めて企画し作成されたものだが、現時点においてでき得る限りの完璧を期した。収録した俳句は類似句を除いて約一万八千七百句である。

この発句編は発句カードの分類整理を基本として作成した。第一回配本の第六巻（五十一年十一月刊）から、その掲載句をカードに整理し、第八回配本の別巻（五十三年十二月刊）までには三万枚を超した。これに本全集所収以外の句集や入集俳書（後掲）の掲載句と、随時所見の遺稿類からおよそ二千句をつけ加えた。そして事務局による同一句・類似句などの基礎的整理を経たのち、次の区分により各編集委員が必要な注記を施して季題別に分類編集した。

〔春・雑〕宮脇　〔夏〕丸山　〔秋〕小林　〔冬・新年〕矢羽

校訂に当たっては、諸種の異本との照合により、各巻における解読の誤りや、――印（重出語省略符号）の語句補充の誤りなども、できる限り訂正することができた。

「一茶叢書」（大正十五年～昭和三年刊・信濃教育会編）の第九編『小品三十種』（上下二巻）に収載されたもので、本全集の句帖の中に加えず、本巻のみに引用した『だん袋』と『浅黄空』について次に解説する。

『だん袋』は、長沼の門人吉村雲士が集めた一茶遺稿で、文化十五年三月より文政六年九月までの発句・真蹟を保存したものであり、題簽も一茶自筆のもの。のちに一書として発刊させる予定だったと思われる。

『浅黄空』は門人久保田春耕家に収蔵されたもので、「元日や上々吉の浅黄空」以下春の句五百二十九句を載せる。元来無題簽であったが、この初句により「一茶叢書」以来この名でよばれている。作句時期は寛政五年肥後八代にあった折の歳旦吟より、文政五年の石太郎一周忌までと知られる。中に「八つ（歳）時」として有名な「我と来て遊ぶ親のない雀」の句が見える。

従来もっとも完備した一茶発句集として知られる、大橋裸木編の『一茶俳句全集』（昭和四年五月・春秋社発行）からは、季題の基本的選定及び配列順次、掲出句の遺漏の有無、さらに作句年次判定などについて多大の便宜を得た。

前著など従来の一茶発句集に比べて、今回新たに追加し得た主な句日記・紀行類には『寛政三年紀行』（第五巻所載）『享和二年句日記』（一部）『花見の記』『文化五年六月句日記』『文化五年八月句日記』『文化六年句日記』（以上第二巻所載）があり、それぞれ寛政、享和及び文化五・六年における散逸空白の部分をみたすものとして貴重である。

その他新たに追加し得たものには『与州播州雑詠』『一茶自筆句集』などがある。前者の四十余句は大部分が初出句であり、後者の約一千句のうち、春の部は『浅黄空』に、その他は各句帖類にほぼ重複しているが、句形・詞書きなどに異なるものがあって参考になった。さらに本巻編集中の昭和五十四年二月発見された『句稿消息断片』（長野県上伊那郡南箕輪村有賀殿夫氏蔵）からも十句（他に既出類似句二句）を新たに加えることができた。

凡　例

本全集は全巻（第一巻―別巻）を通して、各作品とも現存する最良の底本により、その忠実な翻刻を旨としたが、校訂に当たっては読解の便をはかり、次の方針に従った。

1 本文に適当な段落を設け、句読点・濁点をつけ、会話・引用等には「　」、書名には『　』をつけた。ただし底本に元からある濁点については、右傍らに（濁ママ）、半濁点には（半濁ママ）と注して区別した。

2 読解を補うため、必要と思われる個所に新たに読みがな・漢字ルビをつけた。ただし底本に元からある読みがなは＜　＞をつけて区別した。

3 底本に送りがなを欠く場合は、必要に応じて読みがなでこれを補った。

4 かなづかいは底本のままとしたが、必要に応じて歴史的かなづかいを右傍らに（　）をつけて示した。

5 底本の片かなはそのままとした。

6 底本の誤字・当て字は右傍らに（　）を入れて正字を示した。

7 底本の不要な文字・語句は【　】に入れて示した。

8 底本の脱字は、本文に〔　〕をつけて補入した。

9 底本にある拘点〜〜丸点。などはそのままとし、欄外注記・枕書の類で本文に補入したもの、あるいは墨消し・ミセケチ・朱書等は、注でその旨をことわった。

10 虫食い・破損等で文字の欠如している個所は□で表した。

11 漢文には句読点を補い、難読の個所は注で読み方を示した。底本に元からある返り点・送りがなはそのままとした。

12 使用漢字は、原則として現行漢字に改めた。底本に使用されている異体文字・古字・俗字・誤字などで現行漢字に改めた主なものは次の通りである。

　嘩(嘩)・哥(歌)・冰(氷)・霍(鶴)・炅(霊)・厂ー鴈(雁)・菴ー弇(庵)・貞ー貌(顔)・帋(紙)・屮ー艸(草)・埜(野)・雰(霧)・壳(殻)・井(菩薩)・几巾(凧)・笼(籠)・椽ー掾(縁)・煑(煮)・游(泳)・泪(涙)・寐(寝)・窗ー囱(窓)・葬(葬)・緑(烙)・逃(逃)・皈(帰)・霓(霰)・唸(吟)・仝(同)・躰(体)・柿(柿)・舩(船)・履(履)・秋(祓)・皷(鼓)・嶋(島)・耻(恥)・霄(宵)・楳(梅)・咲(笑)・蕚ー鍔(飾)・節(節)・算(算)・菩(菩提)など。

13 底本にある特殊な表記（片・と・鬼・迚など）は、すべてかな書きに改めたが、現在慣行ある「哉」「也」「メ」などは残した。

14 句帖編には丁付けを施した。（二オ―は二丁表、三ウ―は三丁裏を示す）

15 底本・校合本は解説に明記し、本文に異動ある場合は校異を注記した。

16 注記は本文右肩に算用数字で番号をつけ、上欄または作品の末尾にまとめて掲げたが、それも人名・地名・特殊語彙・引用等の略注にとどめた。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

発句編凡例

本巻は、前掲の各巻共通の凡例に拠るほか、左記の方針にしたがった。

1 各句は原則として初出句形、初出出典名によって掲出した。

2 出典は一茶自筆の句帖、句稿もしくはその直接の写本に拠るものとし、以上に漏れたものは、生前の撰集もしくは一茶の直接手を加えた句集などに拠るものとした。なお没後の句集で拠るべきものは『一茶発句集』（文政版・嘉永版）及び『一茶発句鈔追加』、さらに希杖筆写『一茶句集』と梅塵抄録『一茶連句集』に限るものとした。

3 脱字、虫くいなどの欠損句で、著しく句形の不完全なものは削除した。

4 底本の片かなは、原則として平がなに統一した。

5 各句の前書き（詞書き）は、原則としてそのまま掲載したが、きわめて長文のものは、適宜縮小し、あるいはその概要を注記するにとどめた。

6 各句の下欄に出典（略号別記）を付し、初出の句帖などにおける記載年次を、その句の作句年次として示した（年号略記以下のとおり。天明→天、寛政→寛、享和→享、文化→化、文政→政、文政年中と思われるものは政中＝他の年号も同様）。同一年次の句は、五十音順に掲げた（ゐ・い→い、ゑ・えまたエと発音する「へ」→え、を・お→お、ワと発音する「は」→わなど）。また、改元の年にあたる句は、改元された年号に統一した（文化一五は文政一のように）。

7 『発句題叢』所載句は、作句年次について特に他に所見のない場合は文政三年とし、『句稿消息』は句ごとに作句年次を明らかにしてこれを示した。

8　作句年次未詳句は空欄とし、各季題の末尾に五十音順に配列した。

9　各句の左欄に[出]として前記以外の同一句形の出典、[異]として掲出句と異なる句形とその出典、また[注]としてその他必要な事項を注記した。なお、[異]に示した作句年次は句帖類に限った。

10　出典のうち、冊子の体裁をとらない断片資料は「遺稿」として一括し、そのほか、書簡、真蹟類に所見の句も収めた。

11　「一茶」以外の俳号（署名）がある句は、たとえば「菊明で入集」のように注記した。

12　入集句の場合、没後（文政十一年以降）出刊の俳書は、出典から除いた。

13　現今通常の歳時記などに見えない季題、もしくはあっても聞きなれないものには、適当な説明を加えた。

14　出典及び五字以上の書名略号表は、次表のとおりである。ただし六字以上の書名でわかりにくいものは、句の下欄出典を除き、略号を用いなかった。

15　巻末に季題索引を付した。

出典書目

一、一茶編著稿本並びにその写本・句集

〈書名〉	〈刊年 筆写・作句年〉	〈略号〉	〈備考〉
知友録	寛政 二〜四	知友録	
寛政三年紀行	寛政 三	寛政三紀行	注①
寛政句帖	寛政 四〜六	寛政句帖	
西国紀行	寛政 七	西国紀行	注②
たびしうゐ	寛政 七	たびしうゐ	
与州播州雑詠	寛政 九〜一一	与播雑詠	
さらば笠	寛政 一〇	さらば笠	
連句稿裏書	寛政一〇〜文化四	連句稿裏書	
急遞紀	寛政一〇〜文化六	急遞紀	
連句稿	寛政期	連句稿	
父の終焉日記	享和 一	終焉日記	注③
享和二年句日記	享和 二	享和二句記	
享和句帖	享和 三	享和句帖	
一茶園月並	文化 一〜二	一茶園月並	
文化句帖	文化 一〜五	文化句帖	注④
花見の記	文化 五	花見の記	
草津道の記	文化 五	草津道の記	
文化三—八年句日記写	文化 三〜八	化三—八写	
文化五〜六年句日記	文化 五〜六	化五六句記	断片四部
句稿消息	文化 五〜一三	句稿消息	
句稿消息断片	文化 六	句稿断片	
菫草	文化 七	菫草	春甫編
七番日記	文化一政一 七〜文	七番日記	
我春集	文化 八	我春集	
随斎筆紀	文化八政一〇〜文	随斎筆紀	
株番	文化 九〜一一	株番	
木槿集	文化 一〇	木槿集	魚淵編
志多良	文化 一〇	志多良	
文化十年句文集	文化 一〇	化十句文集	
三韓人	文化 一一	三韓人	
杖の竹	文化 一三	杖の竹	松宇編
あとまつり	文化 一三	あとまつり	魚淵編

芭蕉葉ぶね	文化　一四	芭蕉葉ぶね	鴛笠編	
だん袋	文政　一～六	だん袋	雲士輯	
おらが春	文政　二	おらが春		
八番日記	文政　二～四	八番日記	注⑤	
発句題叢	文政　三	発句題叢	注⑥	
まん六の春	文政　五	まん六の春		
文政句帖	文政　五～八	文政句帖		
浅黄空	寛政五～文政五	浅黄空		
一茶自筆句集	寛政五～文政八	自筆本		
俳諧寺抄録	文政　六～九	俳諧寺抄録		
たねおろし	文政　九	たねおろし	素鏡編	
文政九・十年句帖写	文政九～一〇	政九十句写		
方言雑集		方言雑集		
一茶自筆断片資料		遺稿	注⑦	
一茶発句集	文政　三	文政版	注⑧	
一茶発句集	嘉永　一	嘉永版	一具編	
一茶発句鈔追加	天保　四	発句鈔追加	宋鶴編	
一茶句集		希杖本	希杖筆写注⑨	
一茶連句集		梅塵抄録本	梅塵筆写注⑩	

（注）①別称『寛政三年帰郷日記』　②別称『寛政紀行』。同書の余白書込の略号は「西紀書込」とし、所載句は寛政年中の作句として示す　③別称『みとり日記』『看病日記』『父終焉の記』『父の臨終記』　④別称『一茶旅日記』　⑤風間本を基本として、梅塵本と対照補正し、特に異同ある時のみ梅塵本を『梅塵八番』として示す　⑥稿本を基準とし、必要ある時『版本題叢』（太筍編）と記す　⑦冊子の体裁をなさない断片資料で、従来「陽炎や」「しら露」「すみだがさ」「むつびぐさ」「姨捨」「御桜」などの仮題で発表されたもの　⑧信州俳諧寺門従編　⑨希杖本句集の一種である『俳諧寺入道句集写』は『希杖本別本』として表記した　⑩類似の稿本に瑞鷹堂編『茶翁聯句集』があり、一茶の発句はほぼ梅塵本と重複しているが、本書にのみ所収の発句は『茶翁聯句集』として示した。

二、入集俳書ほか

＜書目＞	＜刊年＞	＜編者＞	＜略号＞
真佐古	天明七	自的	真佐古
俳諧五十三駅	天明八	安袋	五十三駅
俳諧百名月	天明八	風後	百名月
俳柳（はいかい）の友	寛政一	玄阿	柳の友

俳諧千題集　寛政一　元夢　千題集
花勧進　寛政一　風後　花勧進
秋顔子　寛政二　素丸　秋顔子
霞の碑　寛政二　児石ら　霞の碑
夏孟子論　寛政二　素丸　夏孟子論
歳旦帖　寛政三　我泉　我泉歳旦（寛三）
蕉翁百回追遠集　寛政四　一峨　翁百回追遠
しぐれ会　寛政七　重厚　しぐれ会（寛七）
霜の会　寛政七　可能　霜の会
花供養　寛政七　闌更　花供養（寛七）
松風会　寛政八　奇淵　松風会（寛八）
樗堂俳諧集　寛政八　樗堂　樗堂俳諧集
丙辰元除春遊　寛政八　徳布　丙辰春遊
丁巳元除春遊　寛政九　徳布　丁巳春遊
時雨会　寛政九　重厚　時雨会（寛九）
歳旦帖　寛政九　都雀　都雀歳旦
霜のはな　寛政九　石人　霜のはな
千秋楽後篇　寛政九　自楽　千秋楽後篇
月の会　寛政九　闌更　月の会

松風会　寛政一〇　奇淵　松風会（寛一〇）
なにはの月　寛政一〇　尺艾　なにはの月
花供養　寛政一〇　闌更　花供養（寛一〇）
みつのとも　寛政一〇　駝岳　みつのとも
黄華集　寛政一〇　升六　黄華集
しぐれ会集　寛政一一　千明　しぐれ会集
其日庵歳旦帖　寛政一一　野逸　其日庵歳旦（寛一一）
俳諧花月集　寛政一一　尺艾　花月集
己未元除春遊　寛政一一　徳布　己未春遊
春興　寛政一一　法雨ら　春興
俳諧十家類題集　寛政一一　駝岳　十家類題集
俳諧発句題苑集　寛政一一　丈左　題苑集
花柑子　寛政一一　升六　花柑子
華の土産　寛政一一　来雅　華の土産
菊の香　寛政一二　耒紹　菊の香
庚申元除春遊　寛政一二　徳布　庚申春遊
歳旦帖　寛政一二　我泉　我泉歳旦（寛一二）
庚申元除楽　寛政一二　桂洲　庚申元除楽
俳諧発句題葉集　寛政一二　升六　題葉集

しぐれの笠	寛政三	紗言	
花見二郎	寛政三	升六	
塵窪	寛政三	鼎斎亨	
斗入法師句帖	寛政期	斗入	
夏木立	寛政期	関叟	
其日庵歳且帖	享和一	野逸	
壬戌元除春遊	享和二	徳布	
三日月集	享和二	白図・少汝	
面目棒	享和二	升六	
水の音	享和三	杉長	
森田有中追善集	享和三	有中	
五明句控帳	寛政～享和	五明	
このはな	寛政～享和	若翁	
幽居集	文化一	夜来	
はたけ芹	文化一	乙二	
甲子元除遍覧	文化一	白芹	
蟬丸	文化一	柴居	
蟹窟	文化二	希言	
甲子発句集	文化二	升六	

しぐれの笠	文化二	白芹	
花見二郎	文化二	素花	
塵窪	文化二	文竜	
斗入句帖	文化二	(不詳)	
夏木立	文化二	完来	
其日庵歳且(享和一)	文化三	升六	
壬戌春遊	文化三	葛斎	
三日月集	文化三	白芹	
面目棒	文化三	河洲	
水の音	文化四	画牛	
有中追善集	文化四	素丸・白芹	
五明句控	文化四	宗拱・郁賀	
このはな	文化四	柑翠	
幽居集	文化四	木俤	
はたけ芹	文化五	一峨	
甲子遍覧	文化六	雉啄	
蟬丸	文化六	万和	
蟹窟	文化六	鷺白	
甲子発句集	文化六	奇淵	

乙丑元除遍覧	文化二	白芹	
はいかい杖の華	文化二	素花	乙丑遍覧
笻の友	文化二	文竜	杖の華
乙丑句集	文化二	(不詳)	笻の友
歳且帖	文化二	完来	乙丑句集
発句二葉草寅巻	文化三	升六	完来歳且
葛斎月並抜粋	文化三	葛斎	二葉草寅巻
丙寅元除遍覧	文化三	白芹	葛斎抜粋
都鄙日記	文化三	河洲	丙寅遍覧
秋暮集	文化四	画牛	都鄙日記
俳諧教訓百首	文化四	素丸・白芹	秋暮集
花声集	文化四	宗拱・郁賀	教訓百首
鹿島集	文化四	柑翠	花声集
木啄集	文化四	木俤	鹿島集
いぬこきむ	文化五	一峨	木啄集
鳴の井	文化六	雉啄	いぬこきむ
蓬萊讃	文化六	万和	鳴の井
古今綾嚢	文化六	鷺白	蓬萊讃
四部栗集	文化六	奇淵	古今綾嚢
			四部栗集

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com